

# 明野ふくろう便

明野中央病院広報誌 | vol.25

訪問看護ステーションふくろうでは、訪問看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、子どもから高齢の患者さんまで、様々な病状や障がいに応じたサービスを提供しています。

訪問看護とは、主治医の指示を受けた訪問看護師が、定期的に患者さんの自宅を訪問して、その方の病状や障がいに応じた看護を行うことです。具体的には、健康状態の観察、病状悪化の防止、療養生活の相談とアドバイス、点滴・注射などの医療処置、痛みの軽減や服薬管理、緊急時の対応、主治医・ケアマネジャーとの連携などです。リハビリテーションが必要な方にはリハビリセラピストが訪問します。

「病状や障がいがあっても、住み慣れた自宅で療養を続けたい」、「人生の最期は家族と一緒に自宅で過ごしたい」...このような方を支援するのが在宅医療です。今回は、明野中央病院に併設されている「訪問看護ステーションふくろう」をご紹介します。

## 在宅医療を支えます



▲ 医師の訪問診療



▲ こんにちは！訪問看護です。お変わりありませんか？



▲ 訪問看護ステーションふくろう・明野中央介護支援センター  
大分市明野東2丁目29-4 TEL.097-547-8576  
医療・介護に関するご相談も受け付けています。お気軽にご相談下さい。

## 当院の在宅医療

**訪問診療**：医師が定期的にご自宅を訪問し、診察を行います。

**訪問看護ステーションふくろう**：看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が定期的にご自宅を訪問し、看護やリハビリ（訪問リハビリ）を行います。

**明野中央介護支援センター（居宅介護支援事業所）**：介護支援専門員（ケアマネジャー）が様々な相談に応じます。

**通所リハビリテーション**：短時間型（1～2時間）のデイケア。病院のリハビリ施設を使ってリハビリを行います。専用の車で送迎を行います。

**訪問栄養指導**：管理栄養士が定期的にご自宅を訪問し、栄養相談や調理指導を行います。



## 外来担当医師のご案内

担当医師名	月	火	水	木	金	土
院長 木下 昭生	午前	○	○	○	○	○
	午後	○		○		休診 休診
内科部長 西宮 実	午前	内視鏡 (南カメ)	○		内視鏡 (南カメ)	○
	午後	内視鏡 (大鏡カメ)	○		○	休診 休診
皆尺寺いずみ	午前			○		
	午後					休診 休診

担当医師名	月	火	水	木	金	土
理事長 中村英次郎	午前	○	手術	○	手術	○
	午後	手術	○ 15:30~	○ 15:30~	手術	休診
こつ・かんせつ・リウマチ センター センター長 藤川 陽祐	午前	○	○	手術	○	手術
	午後		手術	手術	○	休診
副院長 原 克利	午前	手術	○	手術	手術	手術
	午後	○	手術	手術	○	休診
こつ・かんせつ・リウマチ センター 脊髄外科部長 吉岩 豊三	午前	手術	手術	○	手術	
	午後	手術	○ 脊髄専門	手術	手術	○ 休診
荻本 晋作	午前				手術	
	午後				○ 肩専門	休診
形成外科 橋本 二郎	午前					
	午後			○		休診
麻酔科 ペインクリニック 高谷 純司	午前	○		○		
	午後	○				休診



## INFORMATION

診療科目
内科・整形外科・リウマチ科 消化器内科・形成外科 リハビリテーション科・麻酔科 ペインクリニック内科・放射線科

受付時間
月曜日～金曜日 8:30～11:30 14:00～17:30
土曜日 8:30～11:30
日曜日・祝祭日 休診

**病院理念**  
医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める

**基本方針**

- 一、家庭的な優しい医療介護の実施に努めます
- 一、地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます
- 一、患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます
- 一、たえず医療介護の質の向上に努めます
- 一、地域の健康増進病気の予防に努めます

**患者さんの権利について**

私共は、患者さんの権利に関するリスボン宣言を遵守致します

1. 平等で最善の医療を受ける権利
2. 安全に医療を受ける権利
3. 治療を自由に選択し自己で決定する権利
4. 治療内容を知る権利及び知らないでいる権利
5. プライバシーが守られる権利
6. 他の医師や第三者の意見も聞き納得して治療を受ける権利（セカンドオピニオン）



- 大分駅より車で20分
- 高城駅より車で10分
- 米良インターより車で10分
- あけのアクロスタウンより徒歩5分

医療法人社団 唱和会  
**明野中央病院**

発行日 2020年4月  
〒870-0161 大分市明野東2丁目7番33号  
TEL 097-558-3211(代表) FAX 097-558-3709  
E-mail akenohp@fat.coara.or.jp  
http://www.akenohp.jp/

# 安心して入院、不安なく退院、を支援します。地域医療連携室

好んで病院に行きたいという人は少ないと思います。ましてや「入院」となると、もはや人生の一大事です。「治療は必要だけど、入院は嫌だなあ...」。検査や手術のこと、入院後の療養やリハビリ、社会復帰のことなど、様々な疑問や不安が湧いてきます。当院の地域医療連携室では、患者さんに少しでも安心して入院し、不安なく退院していただけるよう、専任の看護師、社会福祉士（医療ソーシャルワーカー）が、入院・退院に関する様々な問題に対して支援しています。



▲地域医療連携室では、専任の看護師と社会福祉士が、入院前の段階から様々な相談に対応しています。

## 入院から退院への流れ

### 1 外来診察の結果、入院が決定

主治医と患者さんが日程調整を行い、入院日を決め、予約します。



### 2 地域医療連携室の専任看護師が入院について説明

地域医療連携室の入退院支援看護師が入院生活に関する説明を行います。

ご持参いただく日用品や病院内の設備、面会、食事、病室等について説明します。検査・手術・治療等の流れについても説明します。続



### 3 多職種で情報共有

入退院支援看護師、病棟看護師、医師、医療ソーシャルワーカーなど多職種でミーティングを行い、入院予定の患者さんに関する情報を共有します。服薬している薬剤については薬剤師が、食事や栄養状態については管理栄養士が確認します。



### 4 入院後もまもなく退院計画を立てます

入院日の翌日、入退院支援看護師と医療ソーシャルワーカーが患者さんと面談し、スムーズな退院に向けた計画を立てます。退院

### 5 退院後も住み慣れた地域で安心療養

退院後も住み慣れた自宅や地域で安心して暮らせるよう、地域の医療機関、介護施設、福祉関係者等と情報共有、連携業務を通じて支援に努めます。



後のご家庭の状況、食事、トイレ、お薬、移動などで問題となること、介護保険認定や家屋の改修など、不安のない退院に行います。

## 病院機能評価 認定



公益財団法人 日本医療機能評価機構は、患者の命と向き合う医療現場に対し、その医療の質を担保するために備えているべき機能について、中立・公平な専門調査者チームによる「病院機能評価」審査を行い、一定の水準を満たした病院を「認定病院」としています。当院は、昨年この審査を受け、認定病院として認定されました。過去に2005年と2010年に認定を受けていましたが、病院の建設工事等もあり、認定更新ができていませんでした。昨年10月に改めて受審し、全ての評価項目について、一定の水準を満たしているという評価をいただきました。評価項目としては、「患者さんの視点に立って良質な医療を提供するために必要な組織体制」、「実際に医療を提供するプロセス」、「病院全体の管理・運営体制」など、108項目に及びました。単なる自己判断の医療ではない、いわ

ゆる「第三者評価」を獲得できました。今後とも、患者さんに満足していただける、質の高い医療レベルを維持できるよう努力を続けます。

## 吉岩豊三医師の論文が奨励賞を受賞

第87回西日本脊椎研究会において、当院こつ・かんせつ・リウマチセンター脊椎外科部長の吉岩豊三医師が発表した論文「Wiseアプローチによる腰椎椎弓根スクリーナーの設置における合併症の検討」が奨励賞を受賞しました。受賞に対して吉岩医師は、「診療や手術など忙しい毎日の中で、研究活動になかなか時間を割けない現状ですが、このような名誉ある賞をいただき大変恐縮しています。手術室スタッフはじめ多くの皆様の協力のおかげです。今後とも少しでも治療の成果や安全性向上に貢献できるよう精進します」と話していました。



▲吉岩豊三脊椎外科部長

## 2019年 年間手術実績

2019年1月～12月の手術件数です。

手術件数合計		1,737
主な手術	椎間板摘出術	50
	椎弓切除術	141
	後方固定術	131
	内視鏡下椎間板摘出術	75
	骨接合術 大腿	48
	人工骨頭挿入術	18
	人工股関節置換術	147
	人工膝関節置換術	265

## リハビリマシン紹介 免荷式歩行リフト

左右のアームから吊り下げられたベルトで体を支えることで、足にかかる体重を制限し、重力をコントロールしながら安全確実に歩行訓練ができます。



## 図書紹介

『日本のパラリンピックを創った男―中村裕』が講談社から出版されました。1964年の東京パラリンピックを実現させた、日本パラリンピックの父 中村裕（当院創設者。日本のアスポートの原点となった56年前の東京パラリンピック。その開催に至るまでの苦難の道のり、日本初の障がい者施設「太陽の家」設立、大分国際車いすマラソン大会開催など、障がい者の社会復帰と自立のために人生を全速力で駆け抜けた医師の挑戦の記録です。



▲14歳からの地図 日本パラリンピックを創った男 中村裕 講談社（著者：鈴木敏）

▲1964年東京パラリンピック。中村は日本選手団長を務めた。

